

## 日本マレーシア経済協議会第33回合同会議概要報告

2014年12月  
日本マレーシア経済協議会

1. 日時： 2014年11月13日（木）9:30～17:25
2. 会場： ヒルトンクチン 「ボールルーム」(マレーシア・サラワク州クチン)
3. 出席者： 総勢180人（代表・随員・オブザーバー等）
  - 【日本側】 佐々木幹夫日本マレーシア経済協議会(JAMECA)会長他約50人
  - 【マレーシア側】 アズマン・ハシムマレーシア日本経済協議会(MAJECA)会長他約130人
  - 【来賓】 アルフレッド・ジャブ・ヌムパン・サラワク州副首相、宮川眞喜雄・駐マレーシア日本国特命全権大使、アバン・ジョハリ・トゥン・オープン・サラワク州住宅・観光大臣、アマル・アワン・テンガー・アリ・ハッサン・サラワク州産業発展大臣

### 4. 総括的概要：



開会時の壇上の様子

今回の合同会議では、「東方政策セカンドウェーブ 日本とマレーシア」をメインテーマに、マレーシア日本経済協議会のアズマン・ハシム会長をはじめとする多数のマレーシア側経済界代表ならびに、来賓として出席した宮川眞喜雄・駐マレーシア日本国特命全権大使、アバン・ジョハリ・トゥン・オープン・サラワク州住宅・観光大臣、アマル・アワン・テンガー・アリ・ハッサン・サラワク州産業発展大臣をはじめとする政府関係者を交え活発な議論を行い、開催地サラワク州の潜在的な可

能性やエネルギー分野等、多岐にわたる分野で両国企業間にビジネスチャンスが存在することを再認識する会合となった。

### 5. セッション別概要：

#### (1) 開会式

開会式では、アズマン・ハシム MAJECA 会長は、今回の会議が「両国の関係者にサラワク州の大きな可能性を見てもらう良い機会になった」と挨拶した。その後、佐々木幹夫会長はサラワク州が豊富な水資源や石炭・天然ガスといった天然資源に恵まれていることを指摘し、マレーシアが同州で進める「サラワク再生可能エネルギー回廊 (SCORE)」政策に対する期待を述べた。また、JAMECA が MAJECA と協力し「東方政策セカンドウェーブ」のもと、「経済交流、人的交流をさらに促進して関係強化を図っていくことを確認した」と述べた。



アズマン・ハシム会長の開会挨拶

続けて宮川眞喜雄・駐マレーシア日本国特命全権大使が安倍晋三日本国内閣総理大臣の祝辞を、ムハマド・タイブ・アブドゥル・ハミッド MAJECA 副会長がナジブ首相の祝辞を代読した。

アマル・アワン・テンガー・アリ・ハッサン・サラワク州産業発展大臣は、基調講演の中で、サラワク州と日本とのビジネス関係について触れ、「サラワク州と日本の関係はとても深い。古くは電子・電器、今は多結晶シリコンの生産など、日本の投資家にとって知らない場所ではない」とアピールした。また、「法制度がしっかりしており州政府はビジネス側に寄り添っている」として、投資環境の良さをアピールした。



開会式後の記念撮影

## (2) 第1回全体会議

第1回全体会議ではまず、ウォン・セン・フー国際貿易産業省・経済貿易関係部シニア・ダイレクターがこれまでの日本・マレーシアの緊密な関係について説明したうえで、東方政策ファーストウェーブの概要と成果及び東方政策セカンドウェーブの重点分野と日・マ間で協力が期待される分野について説明を行った。また、東方政策セカンドウェーブのもとで両国のさらなる発展をめざし今後も協力していくよう呼びかけた。

次に宮川眞喜雄・駐マレーシア日本国特命全権大使が、マハティール元首相が初めて「東方



宮川大使によるスピーチ

政策」を発表したのが JAMECA-MAJECA 合同会議の場であったというエピソードや、東方政策セカンドウェーブの今後の3つの目標について説明した。モハメド・イクバル MAJECA 事務総長兼副会長は東方政策セカンドウェーブの目的や注目すべき点について触れ、今後日本から環境技術などを学ぶことの重要性を指摘した。オセ・ムラン・サラワク州官房副長官からは、今回の合同会議の開催地である同州の地理・歴史・民族等の概要と今後の同州の成長戦略について解説があった。

## (3) 第2回全体会議

第2回全体会議では、まず、イスマウィ・ビン・イスムニ・サラワク州首相府ステート・プランニング・ユニット・ダイレクターが同州の GDP、貿易等の経済概況を説明した後、サラワク再生可能エネルギー回廊（以下、SCORE）の概要やその成長戦略を紹介し、豊富な資源に恵まれ格付機関の評価も高い同州と SCORE への投資メリットを説明した。次にリチャード・カーティス・チャヤマタサラワク社グループ・マネージング・ダイレクターより同社から見た外国企業のサラワク州及び SCORE への投資メリットについて説明があった。最後に春成敬・三菱自動車工業副社長から日本やマレーシアを含む世界各地での電気自動車の普及状況、同社が開発した電源供給装置やプラグイン・ハイブリッド技術について紹介があった。

## (4) 第3回全体会議

第3回全体会議では、まず、サマッド・ビン・ジュナイ・サラワク州首相府ハラル・ハブ・ユニット・ダイレクターより、ハラルの定義や世界でのハラルマーケットの規模、マレーシアにおけるハラル製品の輸出状況等、世界及びマレーシアのハラルの概要について説明があった。その後、同州でのハラルビジネスについてのビジネスチャンスや、ハラル商品の製造や材料の調達等、ワンストップでハラル関連の各種ビジネスサポートを行うことができるタンジュン・マニス・ハラル・ハブについて説明した。

次に、アンドリュー・ガン・リバナスシンガポール社長から「サイエンスコミュニケーションを通じた農業・水産養殖・フードイノベーション」として植物工場や新たな水産養殖といった科学技術が応用されている実例等の説明があった。

原田拓治・マレーシア日本人商工会議所貿易投資委員長からは、日本企業がビジネスをするうえでのマレーシアの魅力や課題が報告された。また、日本にとってサラワク州は、資源供給の面のみならず、製造拠点としても非常に重要な地であり、観光客の訪問先としても非常に魅力的な地であることを説明した。

鈴木武夫・トクヤママレーシア社長は水力発電による豊富で安価な電力という同州の強みに着目してサマラジュ工業団地に進出した同社の取り組み、そしてさらなる住環境の整備等の要望事項を紹介した。

最後に、ルシディ・シディック・ジルザール社共同創設者兼 CEO より日本のハラル商品やムスリムマーケットの規模と魅力について説明があった。



会議には約 180 人が参加した

## (5) 閉会式

閉会式では、佐々木会長が日本側の発言を総括。アズマン・ハシム会長が、ASEAN の市場は世界で最も成長し成熟してきた市場であるとして、「マレーシアの天然資源と日本の技術が合わさると勝利の方程式になる」と強調した。

## (6) サラワク州政府主催歓迎夕食会

閉会式の後、アデナン・サテム・サラワク州首相主催・歓迎夕食会が開催され、アルフレッド・ジャブ・ヌムパン副州首相が州首相の歓迎のスピーチを代読した。また、参加した両国代表団は、アトラクションのサラワク舞踊や音楽を楽しみながら親交を深めた。

## 6. アブドゥル・タイブ・マハムド サラワク州知事表敬訪問

11月13日の昼食時、佐々木会長、アズマン・ハシム会長らはアスタナ（知事公邸）にアブドゥル・タイブ・マハムド・サラワク州知事を表敬訪問した。タイブ知事は、「サラワクでは、マレー人も華人も、イバンや他の民族も「一緒」に成長する。一緒にやっていく風土がある」と述べ、「投資が順調で、これから4～5年、経済がさらに発展すると予想している」と見通しを語った。



タイブ知事への表敬訪問

## 7. 産業視察



太陽誘電（サラワク）の工場を訪問

11月14日の午前中、サラワク州産業発展省の主催により産業視察を実施。地域回廊開発公社（RECODA）やサマジャヤ工業団地を訪問。RECODAでは、ウイルソン・ダンドット CEO から説明を受けた。同氏は、「SCORE は水力発電が中心で電力を売りにしており、電力消費産業を誘致している」と強調、水力発電を軸にこれから同州の内陸部の開発を進めていくことを明らかにした。

サマジャヤ工業団地では、太陽誘電（サラワク）を訪問。携帯電話の電子部品に使われる積層セラミックコンデンサの生産ラインを視察した。そのほか、太陽光パネルを生産するサンエディソン社からも同社の事業について説明を受けた。

以上